

作成日 2007/7/23 改訂日 2010/11/11

化学物質等安全データシート(MSDS)

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称: AC下地調整材W用トナー (赤サビ)

種類: 塗料用着色材

製造会社

会社名: AGCコーテック株式会社

住所: 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2丁目9番地

担当部門: 品質保証室 江澤 孝行

電話番号: 03-5217-5104

FAX番号: 03-5217-5106

緊急連絡電話番号: 03-5217-5104

整理番号: 2028370310805

用途: 建築用、その他

2. 危険有害性の要約

GHS分類:

皮膚腐食性 / 刺激性	: 区分2	
眼に対する重篤な損傷性 / 刺激	: 区分1	
特定標的臓器 / 全身毒性 (単回暴露)	: 区分3	(気道刺激性)
特定標的臓器 / 全身毒性 (反復暴露)	: 区分1	(呼吸器系)
吸引性呼吸器有害性	: 区分外	

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素:

絵表示シンボル:



注意喚起語: 危険

危険有害性情報:

- ・ 皮膚刺激
- ・ 重篤な眼の損傷
- ・ 呼吸器への刺激のおそれ
- ・ 長期又は反復ばく露による呼吸器系の障害

注意書き:

安全対策:

- ・ 使用前にMSDSを入手し、すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 保護手袋/保護眼鏡/保護面/保護衣を着用すること。
- ・ この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・ 取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・ ミスト/蒸気/スプレーの吸入しないこと。
- ・ 指定された材料以外のものと混合しないこと。
- ・ 容器からこぼれた場合は、砂などを散布したのち処理すること。
- ・ 本来の用途以外に使用しないこと。

応急措置:

- ・ 皮膚等に付着した場合: 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当を受けること。
- ・ 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。
次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。
- ・ 暴露または暴露の懸念がある場合、気分が悪い場合: 医師の診断/手当を受けること。

保管:

- ・ 容器を密閉し、涼しく換気の良いところで、施設して保管すること。
 - ・ 子供の手の届かないところに保管すること。
- 廃棄：
- ・ 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質 / 混合物の区分: 混合物

化学名または一般名: 情報なし

化学特性(化学式等): 情報なし

毒物及び劇物取締法: 該当せず

成分:

成分名	CAS.	含有量(%)	安衛法 通知物質	毒劇法	PRTR法
酸化鉄	1309-37-1	50~60			
硫酸バリウム	7727-43-7	15~20			
水	7732-18-5	20~30			
水溶性樹脂及びその他成分	非公開	1~5			

4. 応急措置

吸入した場合:

- ・ 蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時には、医師に連絡すること。
- ・ 蒸気、ガス等を多量に吸い込んだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移し暖かく安静にする。呼吸が不規則か、止まっている場合は人工呼吸を行う。嘔吐物は飲み込まないようにする。直ちに医師の手当てを受けること。

皮膚に付着した場合:

- ・ 付着物を布にて素早く拭き取る。
- ・ 大量の水および石鹸または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。
- ・ 外観に変化が見られたり、刺激痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。
- ・ 汚染された衣類を取り除くこと。

目に入った場合:

- ・ 直ちに、大量の清浄な流水で15分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。まぶたの裏まで完全に洗うこと。
- ・ できるだけ早く医師の診察を受けること。
- ・ 直ちに、医師に連絡すること。

飲み込んだ場合:

- ・ 誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
- ・ 嘔吐物は飲み込ませないこと。
- ・ 医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

応急措置をする者の保護:

- ・ 適切な保護具(防護メガネ、防護マスク、手袋等)を着用する。
- ・ 換気を行う。

5. 火災時の措置

消火剤: 粉末消火剤、一般の泡消火剤、二酸化炭素、砂、噴霧水

使ってはならない消火剤: 棒状注水

特有の危険有害性

- ・ 火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- ・ 加熱により容器が爆発するおそれがある。

特有の消化方法、消火を行うものの保護:

- ・ 適切な保護具(耐熱性着衣等)を着用する。
- ・ 可燃性のものを周囲から素早く取り除く。
- ・ 指定された消火剤を使用すること。
- ・ 消火活動は風上より行う。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:

- ・ 作業の際は適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。
- ・ 周辺を立ち入り禁止にし、関係者以外を近づけないようにして、二次災害を防止する。

- ・ 付近の着火源・高温体および付近の可燃物を素早く取り除く。
 - ・ 着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
- 環境に対する注意事項：
- ・ 河川への排出等により、環境への影響を起こさないように注意する。
- 封じ込め及び浄化の方法／機材：
- ・ 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置すること。
 - ・ 漏出物は、密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。
 - ・ 衝撃、静電気に備えて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。
 - ・ 乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて、回収する。大量の流出は盛土で囲って流出を防止する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：

技術的対策：

- ・ 換気のよい場所で、取り扱う。
- ・ 容器は、その都度密栓する。
- ・ 周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
- ・ 工具は、火花防止型のものを使用する。
- ・ 作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。
- ・ 皮膚、粘膜または着衣に触れたり、眼に入らぬよう保護具を着用する。
- ・ 取扱い後は、手・顔等は良く洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。
- ・ 密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。

保管：

技術的対策：

- ・ 酸化剤から離して保管する。
- ・ 日光の直射を避ける。
- ・ 風通しのよいところに保管する。
- ・ 火気、熱源から遠ざけて保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策：

- ・ この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
- ・ 高熱取扱いで、工程でミストが発生するときには、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。
- ・ 高熱取扱いで、工程でガスが発生するときには、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

管理濃度／許容濃度：

化学物質名	暴露管理基準ppm	暴露管理基準mg/m ³
酸化鉄		【粉塵許容濃度】 吸入性粉塵 1 総粉塵 4
硫酸バリウム		
化学物質名	ACGIH_TWA ppm	ACGIH_TWA mg/m ³
酸化鉄		5
硫酸バリウム		10
化学物質名	IARC	
酸化鉄		
硫酸バリウム		

保護具：

呼吸器の保護具：

- ・ 適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具：

- ・ 適切な保護手袋を着用すること。

目の保護具：

- ・ 適切な眼の保護具を着用すること。
- ・ 化学飛沫用のゴーグル及び規格にあった顔面保護具を着用すること。
- ・ 安全眼鏡を着用すること。撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起こりうる時は、包括的な化学スプラッシュゴーグル、及び顔面シールドを着用すること。

皮膚及び身体の保護具：

- ・適切な顔面用の保護具を着用すること。
- その他：
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状态	：	液体
色	：	茶色
臭い	：	微臭
pH	：	8
引火点	：	引火せず []
比重(相対密度)	：	2.39 [20]
溶解度		
水に対する溶解性	：	水に可溶

10. 安定性及び反応性

安定性：

- ・常温、常圧で安定。

避けるべき条件：

- ・高温を避ける。

危険有害な分解生成物

- ・データなし

11. 有害性情報

急性毒性：

- ・情報なし

(酸化鉄として)

急性毒性：経口

データなし

急性毒性：経皮

データなし

急性毒性：吸入(気体)

GHSの定義による個体である。

急性毒性：吸入(蒸気)

データなし

急性毒性：吸入(粉じん)

本物質は個体で蒸気圧はほとんど無視できるため、吸入試験は粉塵で行われたと考えられる。LC50値が得られた試験がないため、データ不足で分類できないとした。

急性毒性：吸入(ミスト)

本物質は個体で蒸気圧はほとんど無視できるため、吸入試験は粉塵で行われたと考えられる。LC50値が得られた試験がないため、データ不足で分類できないとした。

生殖細胞変異原性

in vivoの試験結果がなく、in vitroで複数指標の強い陽性結果がないことに基き、技術指針に従い分類できないとした。

発がん性

ACGIHでA4に分類されていることに基き、区分外とした。

12. 環境影響情報

- ・環境に対する有害性

情報なし

- ・生態毒性

情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

- ・廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
- ・廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

汚染容器および包装：

- ・容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
- ・空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

- ・容器にもれないことを確かめ、転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。
- ・取扱いおよび保管上の注意の項の記載に従うこと。

国連番号：該当しない

15. 適用法令

労働安全衛生法:

- ・ 名称等を通知すべき危険物及び有害物
-

16. その他の情報

引用文献:

- ・ 日本塗料工業会編集「原料物質データベース」
- ・ 日本塗料工業会編集:製品安全データシート・ガイドブック(混合物用)
- ・ オーム社:溶剤ポケットブック
- ・ 危険物防災救急便覧
- ・ 国際化学物質安全カード(ICSC)

その他

- ・ このMSDSは、当社の製品を適正にご使用戴くために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の実施を対象としたものです。
- ・ 記載内容は、現時点で入手した資料、情報データに基づき作成しておりますが、危険、有害性に関する評価は、必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意してください。
- ・ このMSDSは、法令の改正、新しい知見により、予告なく改訂することがあります。
- ・ このMSDSは、国の規制を含む(社)日本塗料工業会の基準に基づいたものでありますが、地方自治体の規制情報は含まれていませんので、当該自治体の規制に従って対処してください。
- ・ 危険有害成分の濃度(%)表示の幅記載は「以上～未満」をい示しています。
- ・ PRTR該当物質については、1, 2種は1%以上、特定1種0.1%以上の場合に対象となります。
- ・ PRTR2種については、国(事業所管轄大臣)への報告は不要です。